

令和元年度第1回港区地域包括ケアシステム推進会議 会議録要旨

会議名	令和元年度第1回港区地域包括ケアシステム推進会議
開催日時	令和元年年5月29日(水)19時30分～20時15分
開催場所	神明いきいきプラザ 集会室
出欠状況	出席委員 17名 欠席委員 2名
出席委員	<p>【会長】河合 克 義(明治学院大学社会学部 学長特別補佐・名誉教授)</p> <p>【副会長】藤田 耕一郎(一般社団法人東京都港区医師会 会長)</p> <p>長井 博 昭(公益社団法人東京都港区芝歯科医師会 会長)</p> <p>豊田 真 基(公益社団法人東京都港区麻布赤坂歯科医師会 会長)</p> <p>龍岡 健 一(一般社団法人東京都港区薬剤師会 会長)</p> <p>木村 健二郎(JCHO 東京高輪病院 院長)</p> <p>石川 智 久(東京慈恵会医科大学附属病院 患者支援・医療連携センター センター長)</p> <p>竜崎 崇 和(東京都済生会中央病院 副院長)</p> <p>鈴木 幸 雄(古川橋病院 院長)</p> <p>奥野 佳 宏(港区社会福祉協議会 事務局長)</p> <p>野尻 三重子(港区民生・児童委員協議会 会長)</p> <p>馬場 恵 夫(御成門六和町会 会長)</p> <p>清原 元 輔(麻布町会・自治会連合会 会長)</p> <p>出野 泰 正(赤坂青山町会連合会 会長)</p> <p>岡田 祥 男(芝浦一丁目町会 会長)</p> <p>森 信 二(保健福祉支援部長)</p> <p>阿部 敦 子(みなと保健所長)</p>
事務局	保健福祉支援部保健福祉課
受託事業者	<p>東部在宅療養相談窓口 担当者 野口</p> <p>西部在宅療養相談窓口 担当者 坂口</p> <p>(社福)恩賜財団済生会支部東京都済生会</p>
会議次第	<p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 港区の地域包括ケアシステムの進捗状況について 2 港区の地域包括ケアシステムの令和元年度の取組について 3 港区の地域包括ケアシステムの推進体制について 4 その他
配布資料	<p>資料1 港区の地域包括ケアシステムについて</p> <p>資料1-2 港区「地域包括ケアシステムに関する事業」報告書</p> <p>資料1-3 港区の基礎データ</p> <p>資料2 令和元年度の港区の地域包括ケアシステムの主な構成図(案)</p> <p>資料2-2 港区の地域包括ケアシステムのスケジュール(案)</p> <p>資料3 港区の地域包括ケアシステムの推進体制について</p> <p>資料3-2 地域リハビリテーション・介護予防推進部会 開催概要</p> <p>参考資料1 港区地域包括ケアシステム推進会議設置要綱</p> <p>参考資料2 港区地域包括ケアシステム推進会議名簿</p>

議題

(1) 港区の地域包括ケアシステムの進捗状況について

(事務局より資料1・1-2・1-3について説明)

- 委員 : 私どもは一般市民向け公開講座をNHKと共催で開催している。隔月奇数月の土曜日に開催しており、大体50人前後、多いときで60人弱お越しになることもある。医学的な部分はもちろんだが、皆様方に接しやすい内容にし、今年は「痛みに関して」をテーマにしている。大学には色々な職種の方がいるので、今回は最新鋭の診断機器による画像がこんなふうに見えるというのを、放射線の専門医師が行う。
- 委員 : 在宅療養後方支援病床の運用実績の中で、介護を担う家族の休養を目的とした一時預かり入院先として、区内2病院の利用件数があるが、例えば月によって希望はあったが、たまたま病床がいっぱいで断らざるを得なかったとか、そういった状況はいかがか。また、こうした制度は区民の皆様はどういったところで知ることができるのか。
- 事務局 : 在宅療養後方支援病床については、区のホームページや病院内、在宅療養相談窓口の方で、案内している。また、利用したいという相談をお断りしたことがあるかどうかだが、今のところ、そういうことはないかと思う。
- 委員 : 実際に在宅でケアをされている方々が、こういった情報を得る時の一番身近な相談相手は、やはりケアマネジャーさんになる。できればこういった制度がケアマネジャーさんに周知されていると、利用者が直接港区のホームページを見たり、高齢者相談センターの方に電話したりする前に、ケアマネジャーさんが利用者にはアドバイスできるので、区民の皆様は、もう少し気が楽に在宅のケアできると思う。
- 委員 : 当病院には49床の地域包括ケア病床がある。私どもの病床の利用の仕方は、ご相談があったときに、最初の頃はまず地域包括ケア病床に適用があるか色々な検討をしてからのお返事だったので、大分時間がかかってしまった面があった。今は即座に引き受けるということで、場合によってはすぐ地域包括ケア病棟ではなく、急性期病棟に入っていてそこで状態を見て、もし必要があればきちんとした治療して、そのあと包括ケア病棟の方に移っていただくとか柔軟に対応しているので、もしそういうご希望があれば、受入れることは可能。最初は何床か確保という話もあったが、確保して空けておいてもなかなか利用されないの、もし地域包括ケア病棟の方がいっぱいになれば急性期で先に受けて、その後地域包括ケア病棟に移るということもあるので、ぜひご利用いただきたい。
- 委員 : やはり病院は、そのためだけにベッドを空けておくのはとても難しいが、逆に言うと、必ずいつも満床ということではなく、どこか1床や2床空いている。そのため、特に具合の悪い方は最初急性期で見るとか、そういう要請があれば断らないようやっている。
- 会長 : 先ほどの質問、区民への周知は総合的に見てどうか。
- 事務局 : ケアマネジャーさんには、こちらの在宅療養後方支援病床と在宅療養相談窓口をセットでアナウンスしている。多くのケアマネジャーさんに周知できるように、ケアマネ研修会や区の説明会などに参加し、浸透するように進めていきたいと考えている。
- 委員 : 実際地域包括ケア病床に関するご相談は、地域のケアマネジャーさんや訪問看護ステーションからかなり多い。そのため、もっと周知していただければ利用は増えると思う。先ほどあったように、どこ行ったらいいのだろう、どこに相談したらいいのだろうという声も結構聞くので、ぜひ行政の方としても、うまく広報していただければと思う。
- 会長 : ベッド数も余裕あるようなので、もう少し宣伝の方法を考えていただければと思う。

(2) 港区の地域包括ケアシステムの令和元年度の取組について

(事務局より資料2・2-2について説明)

委員 : 生活支援コーディネーターの活動実績として、地域資源の見える化として、平成30年度に作成した麻布地区版と高輪地区版の地域情報マップを机上に配布させていただいた。このマップは65歳から75歳の方々にきめ細かくインタビューをし、地域の支え合いの場やぶらっと出かけられるところ等、地域の資源をまとめたもの。例えば高齢者相談センターや色々なサロンをやっている場所、車椅子ステーションの情報を掲載している。マップの裏面には高齢者が1人でぶらっと行っても長い時間過ごせるお店や、店員さんが親切で高齢者にとって使いやすいお店を一覧にして情報提供している。関係機関やその地域で活動されている皆様方が、色々な方への情報提供の一つの資源として活用していただければ。

生活支援コーディネーターが設置された平成29年度当初は45サロンだったが、現在は50サロンになっている。前回この会議でも話題になっていたが、なかなかケアマネジャーさんや民政委員さんが入っていけないようなセキュリティの高い高層住宅の中で、いかにしてサロンを立ち上げていただくか、管理事務所、管理会社なども巻き込んで少しでもそういう地域住民の方々の活動につなげられるように取り組んでいる。

会長 : 保健福祉医療の分野で港区の一番大きな上位の組織として港区地域保健福祉推進協議会があり、全体を統括し、その下に高齢とか障害とか各分野の分科会がある。来年が見直しで、今年度それに向けて基礎調査をやる。こういう計画を作るときに、それぞれの領域でこうしたシステムを作っているが、その計画づくりとか実態把握とか、少し全体的に見る必要がある。やはり今の状況に合わせた計画のための実態把握は、毎回の踏襲だけではなく、現状をきちっと考えて把握をすることが必要ではないか。

委員 : 計画は、行政の中の財政フレームの中でどういうふうに進めていくかという一つ大きな課題の中でやっている。地域保健福祉の中でいうと、やはり今我々として大きな課題だと思っているのは、ダブルケアやトリプルケアというような一つの世帯の中で、介護や子どもなど様々な問題を抱えている世帯への支援について。今まで行政は縦割り個別にサービスを提供してきたが、その辺を全部丸ごと見て、支援するような仕組みが必要だと考えているので、そういう意味では世帯ごとでどんな問題を抱えているのかが明らかになるような調査が必要だと思う。そのため、対象者はそれぞれ切り口が違うが、そこから全体に見えるものが導き出せるとまた違う新しいサービスの展開の仕方を考えられると考えている。

会長 : 計画を策定する時期は非常に大切で、港区の地域特性、区民の生活状況も大きく変わってきているかと思うので、そこら辺をきちんと把握するよう、ひと工夫必要。少し早めに課題を意識してやっていくのは重要だと思う。

委員 : 地域情報マップに掲載されている車椅子ステーションについて、申込みは港区社会福祉協議会の地域活動支援係へ連絡するようになってきているが、多分高齢者が出先で急に必要になった時は、事前連絡ではない方が多いかと思う。いきなり行っても、時間内であれば、貸し出しをしていただけるのか。また、マップ裏面に掲載されている買い物できるお店と食べられるお店は、もちろん掲載の了解をとっているだろうが、なんでうちは載せていないのかというようなことが今までなかったのか、今後赤坂地区を作る上で、参考に聞きたい。

委員 : まず車椅子ステーションのお尋ねだが、実は車椅子ステーションというのは社協がや

っていることもあり、介護保険の中で使われる方にお貸しできないというルールなどがある。そのため、例えば介護保険のサービスで車椅子が借りられる方がステーションに来られても、借りられないということがあるので、このように記載している。ただ、本当に必要な方に関しては、そのステーションに行っていただければ、その場で申し込んでいただき、お貸しできるような状況。

次にマップのお店に関しては、先ほど申し上げたように利用されている方の良かったという口コミから店の了解を取って、掲載させていただいているので、漏れているところは多分あると思う。配布させていただく中で、今後うちの店が載っていないという意見が出てきたら、次回作成する時にはぜひ掲載させていただくような形で対応していきたい。

会長 : 食事ができるお店のリストを見て思ったのは、各地区の地元の商店会の振興をどう図るかというところで、行政的な分野は別になるが、産業振興課が担っている地域戦略と上手くコラボすれば、もうちょっと出てくるのかなと思った。

(3) 港区の地域包括ケアシステムの推進体制について

(事務局より資料3・3-2について説明)

(4) その他

会長 : 資料の1-3 3ページの認知症の症状がある高齢者の将来推計では、現在6,000人の推計が、2025年には8,000人ぐらい、2,000人増えるという推計がある。都の推計を勘案してこういう推計をされているが、確かに増えてきているのは事実。この間区民公開講座で地域包括ケアの講演会をやった時も、フロアの区民の方から認知症の話があった。今後どうして行くのかというのが重要な課題だ。

委員 : 当院では2015年9月から都の指定を受けて、認知症疾患医療センターを設けている。取組内容としては、認知症の鑑別診断等の相談や定期的に勉強会をやっている。例えば医療従事者に関しては、認知症のケアセミナーを3ヶ月に一遍程度開催している。8月には、パーソン・センタード・ケアということで症例に基づいて、どういうふうにかケアをしていくか講演を交えて、セミナーを行う。また家族の方たちを対象として、認知症ファミリーサロンひだまりというのを毎月第3金曜日の10時から11時に定例で行っている。そのような形で色々な勉強会を開催しているので、ぜひご利用いただきたい。

会長 : 地域包括ケアシステムにとって、この認知症というのはなかなか見えないところが多く潜在的な問題だと思うが、もう少し広く区民参画、区民ぐるみで考えていくようなことが必要だと思う。町会・自治会レベルではこうした認知症の問題は話題になるか。

委員 : 私どもの町会には老人会があり、みんな認知症について恐怖を持っている。町会では、指の運動として週一回麻雀に取り組んでいる。また、耳が不自由になってきている高齢者の方が増えてきて、上手だったカラオケがリズムも合わなくなり、結局それが発端で自宅に閉じこもるようになったと感じている。町会としては、何か対策が取れるといいと思っているが、何かアドバイスがあれば教えてほしい。

副会長 : 区民健診の中に医師会の独自事業で、聴力検査がある。難聴の方、聴こえが悪いかなという方に聴力検査を提供し、耳の掃除をすればいいのか、補聴器が必要なのか等適切なアドバイスをさせていただく。より一層定着していければと思っているので、ぜひご紹介いただければ。

- 委員 : 嗅覚が衰えるとどうしても海馬と繋がっているのです、認知症の発症に関係があるのではないかと個人的に思っている。そこの辺り高齢者に対する嗅覚のケアは、どこか実施している病院はあるか。
- 委員 : 当病院にも耳鼻科はあるが、そういう視点では今見ていないと思う。嗅覚が衰えると認知症を発症しやすいというのは私ども聞いたことがあるので、今後そういうところも、耳鼻科と相談してみたい。
- 委員 : 当病院は特にそういう取組はないと思うが、嗅覚や聴覚など色々な視点がある。先ほど申し上げた介護する方のセミナーは、講習の場だけではなく、相談の場でもあるので、そういった場に積極的に出て、どこで相談したほうがいいのか全体的に考えていただくのがいいかと思う。
- 委員 : なかなかまだ嗅覚のテスト自体があまりやられていないと思う。今後の課題としてそういうものも検査できたらよろしいかと思う。
- 委員 : 先ほどの地域情報マップで掲載しているレストランの件だが、数が多くなると、どこに行ってもいいか分からなくなる。ある程度選んでいるのであれば、何か星印をつけて、そういう口コミで評判のお店を載せているとかそういうアナウンスされたらいいのではないかと思う。
- 事務局 : 次回の推進会議は、令和2年1月下旬を予定している。日程については、会長、副会長と相談させていただき、皆さんにお知らせする。
- 会長 : 以上で、令和元年度第1回港区地域包括ケアシステム推進会議を閉会する。